

令和2年度北海道地域評議会報告

1. 開催日時・場所

令和3年2月19日（金）14時00分～16時30分
森林総合研究所北海道支所 大会議室

2. 評議会委員

河野裕之 委員（北海道森林管理局森林整備部長）
佐藤冬樹 委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長）
谷 一之 委員（下川町長）

3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長（6名）※、
グループ長（4名）※、地域連携推進室長、総務課長
北海道育種場：場長（欠席）、連絡調整課長、育種課長、遺伝資源管理課長、
育種研究室長※、育種技術専門役※
札幌水源林整備事務所（オブザーバー）：所長※、次長※
※ オンライン参加

4. 評議会内容

(1) 令和2年度活動報告

森林総合研究所全体の組織・課題構成等を共通部分として紹介した後、北海道支所と
林木育種センター北海道育種場の組織・課題構成・資金・連携橋渡し状況・行事及び広
報活動についてそれぞれ説明を行った。

(2) 北海道支所研究紹介

- ① 「都市近郊林におけるエゾシカ被害防除手法の構築」
- ② 「トドマツ人工林における保持林業の生物多様性保全効果の検証
－地表性甲虫類群集の応答－」

(3) 北海道育種場研究紹介

「トドマツエリートツリーの開発及び特定母樹の指定」

5. 評議会委員からのコメント・助言

- ・森林研究・整備機構では今中長期目標で「橋渡し」を重視しているとのことだが、新型コロナウィルスの影響を受ける中、成果をオンラインで発信するなど工夫して行っていると思う。国有林では来年度から、伐採・地拵えの一貫作業や全面地拵え、下刈り省略または重機を使う下刈りなどで低コスト造林の実証的な試験を開始する。森林総研に協力をお願いしたい。

- ・北海道支所では限られた人数で研究開発を行っており、次期中長期目標期間でも予算面での圧力が増すと思われるが、論文での公表とともに社会貢献として旭川でのシンポジウムのように広く一般に研究成果を伝える取り組みを続けてもらいたい。
- ・先日公開された YouTube での成果発表会を見たが、地方自治体に有益なことを発信されていると感じた。カーボンゼロ社会の実現に向けて環境問題に取り組まなければならないが、林業はそのことに貢献できる。その一方、経済活動やバイオマスエネルギーの自給推進への貢献も重要である。成長の良さや木材の剛性の高さなどを備えた種苗は林業の効率化に役立つので、今後も研究開発を続けてほしい。